

事業所名

児童発達支援・放課後等デイサービス ジニア

## 支援プログラム（参考様式）

作成日

2025年

2月

28日

法人（事業所）理念	法人：たくさんの経験と心のつながりをはぐくむことのできる「居場所」を 事業所：社会へ出るために必要な能力の発育を					
支援方針	社会に出るために必要なスキルを向上させる。 持続可能で質の高いサービスの実現を目指す。 それぞれに合った支援の提供と支援の質の向上。					
営業時間	9時	30分	17時	30分	送迎実施の有無	あり
支 援 内 容						
本人 支 援	健康・生活	登所した際は自分で靴と靴下を脱ぎ、下駄箱に入れます。上着や水筒を所定の位置に置いた後、ロッカーに鞆を入れ、本日の取り組みにみんなで進むため、静かに待ちます。 送ってきていただいた親御さんやお迎えに行った際の園や学校の先生よりその日の様子を伺い、体調面や精神面の当日の様子を把握します。 順番を意識して行動し、おやつを食べる際も机を拭いたり、食器を片づけたりすることは自分たちで行います。 個人の発達段階や状況にあった介入を行い、成長発達を促します。				
	運動・感覚	準備運動や体操の時間において、感覚統合を行います。学校体育に沿った内容で、毎週変わるプログラムを行い、体力や筋力、体幹を鍛えていきます。 粗大運動として30分程度の運動を汗をかくくらい行い、成功体験から苦手を得意に変えられるように支援します。 工作やクッキングを通して手先を動かす運動を行い、力加減や細かな感覚を把握できるように進めていきます。				
	認知・行動	工作やクッキングを通して、たくさんの触覚刺激を行ったり、様々な工程を踏んだ制作物を作ったりすることで、繰り返し行動によるなれと学びを得るとともに、新しいことへの挑戦を促します。 一年を通して季節や時期にあった内容に触れていくことで、季節の移り変わりや時間の流れを感じてもらいます。				
	言語 コミュニケーション	他児や職員からの声に耳を傾け、視覚でも認知する行為を繰り返すことにより、自ら発信できるように促します。 他者との関わりにより相手の反応を得られるよう、自らの言葉で話したり、行動することができるよう療育していきます。 発語の難しい児童にはコミュニケーションの手段として、一言でも発することができるような工夫であったり、自らの意思を示す方法であったりとともに考えていきます。				
	人間関係 社会性	他児や職員との関わりの中で、挨拶を重視し、自ら発信することで信頼関係を得られるように動き、安心感が得られるように行動していきます。 小集団での活動を通して、協力して一つのことに取り組み制作物を完成させたり、同様の体験を共有し一体感を得たりできるようなプログラムを提供します。 事業所内での行事に参加し、たくさんの人の目に触れる中での行動を理解するとともに、個人の発達段階にあった介入を行い成長発達を促します。				
家族支援	日常生活において社会資源が足りているか、確認し必要があればアドバイスを 行う。他の保護者との交流を増やすため、保護者会を実施し、ご家族の生活状 況やお困りごとを聴取する機会を作る。			移行支援	ライフステージの切り替えを見据えた、地域の生活の場や育ちの場との交 流と情報交換を行う。	
地域支援・地域連携	他の通所支援事業所との交流と情報交換を行う。			職員の質の向上	職員の各種研修への参加。 資格取得支援有。	
主な行事等	年1回の保護者会。 年1回の発表会。					